

【平成 30 年 06 月の経済報告】

平成 30 年 6 月 21 日

本稿は、マイクロマシン／MEMS 分野を取り巻く経済・政策動向のトピックをいろいろな観点からとらえて発信しています。平成 30 年 6 月の経済報告をお届けします。

1. 全般動向

4 月の C I（速報値・平成 22(2010)年=100）は、先行指数：105.6、一致指数：117.7、遅行指数：116.9 となった。

先行指数は、前月と比較して 1.1 ポイント上昇し、2 か月ぶりの上昇となった。3 か月後方移動平均は 0.04 ポイント下降し、4 か月連続の下降となった。7 か月後方移動平均は 0.10 ポイント下降し、2 か月連続の下降となった。

一致指数は、前月と比較して 1.7 ポイント上昇し、3 ヶ月連続の上昇となった。3 か月後方移動平均は 0.90 ポイント上昇し、4 ヶ月ぶりの上昇となった。7 か月後方移動平均は 0.22 ポイント上昇し、2 か月ぶりの上昇となった。

遅行指数は、前月と比較して 1.3 ポイント下降し、9 か月ぶりの下降となった。3 か月後方移動平均は 0.33 ポイント下降し、9 か月ぶりの下降となった。7 か月後方移動平均は 0.11 ポイント上昇し、17 か月連続の上昇となった。

詳細は以下の HP をご参照下さい。

<http://www.esri.cao.go.jp/jp/stat/di/201804psummary.pdf>

2. 各経済指標

◎ 月例報告（内閣府）（平成 30 年 5 月 23 日公表）

日本経済の基調判断

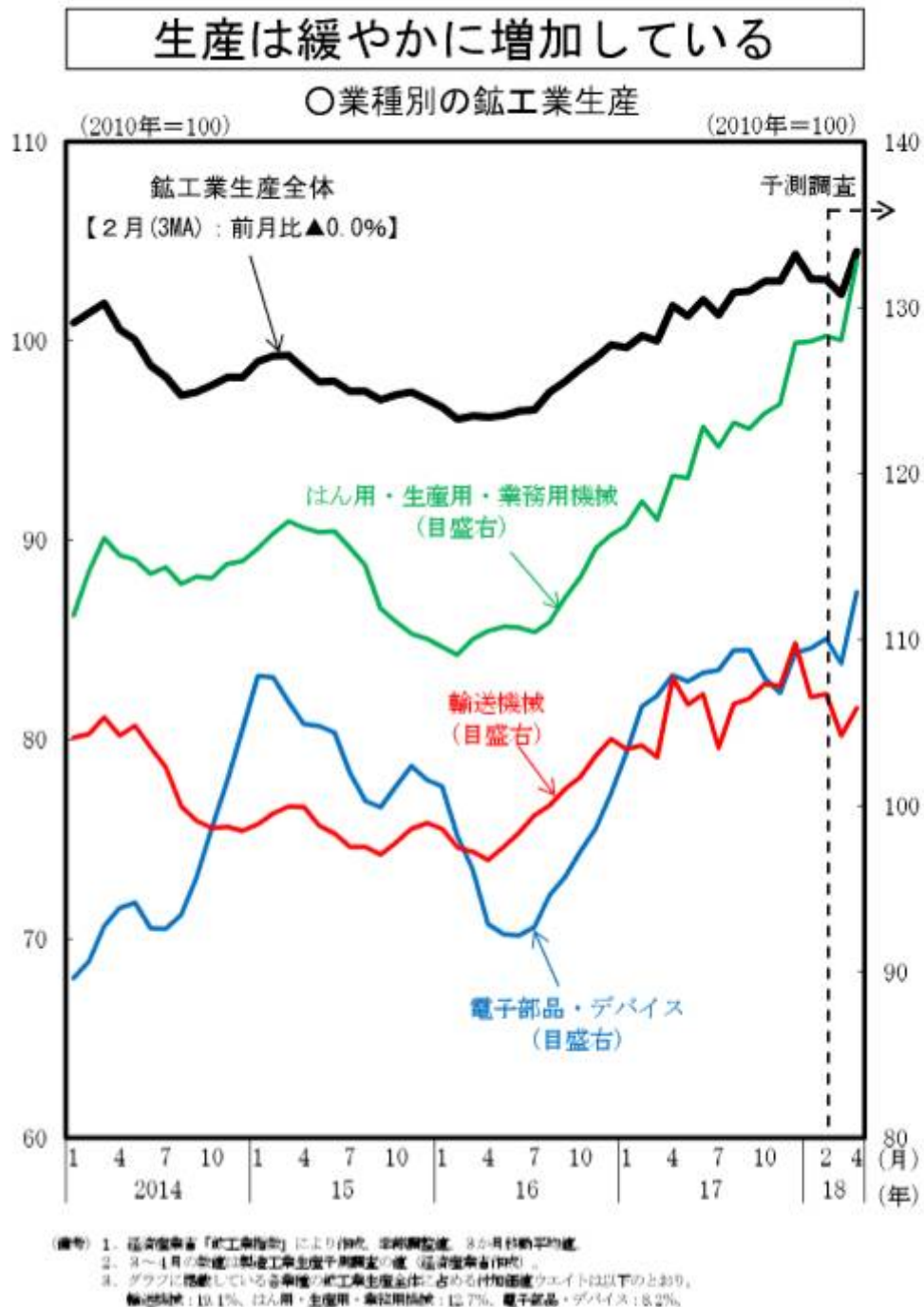
（現状）

- ・景気は、穏やかに回復している

（先行き）

先行きについては、雇用・所得環境の改善が続くなかで、各種政策の効果もあつ

て、穏やかな回復が続くことが期待される。ただし、海外経済の不確実性や金融資本市場の変動の影響に留意する必要がある。



詳細は以下のHPをご参照下さい。

<http://www5.cao.go.jp/keizai3/getsurei/2018/05kaigi.pdf>

◎ 設備投資

平成 30 年 4 月実績：機械受注統計調査報告

(平成 30 年 6 月 11 日内閣府経済社会総合研究所)

機械受注総額の動向をみると、2018（平成 30）年 3 月前月比 7.9%減の後、4 月は同 12.6%増の 2 兆 5,080 億円となった。

需要者別にみると、民需は前月比 15.1%増の 1 兆 587 億円、官公需は同 6.2%増の 2,582 億円、外需は同 10.0%増の 1 兆 324 億円、代理店は同 0.2%減の 1,303 億円となった。

民間設備投資の先行指標である「船舶・電力を除く民需」の動向をみると、2018(平成 30)年 3 月前月比 3.9%減の後、4 月は同 10.1%増の 9,431 億円となった。このうち、製造業は同 22.7%増の 4,479 億円、非製造業（除く船舶・電力）は同 0.4%増の 4,778 億円となった。

対前月(期)比

(単位:%)

期・月 需要者	2017年 (平成29年)			2018年 (平成30年)		2018年 (平成30年)			
	4-6月 (実績)	7-9月 (実績)	10-12月 (実績)	1-3月 (実績)	4-6月 (見通し)	1月 (実績)	2月 (実績)	3月 (実績)	4月 (実績)
受注総額	1.7	6.3	4.0	-5.3	9.9	4.5	-2.3	-7.9	12.6
民需	-0.7	5.7	3.1	-3.5	6.8	-3.4	14.9	-18.8	15.1
" (除船電)	-3.4	2.8	0.3	3.3	7.1	8.2	2.1	-3.9	10.1
製造業	2.6	6.2	3.5	2.5	9.9	9.9	8.0	-17.5	22.7
非製造業(除船電)	-8.1	0.0	-2.1	3.4	3.7	4.4	0.0	2.2	0.4
官公需	-11.7	11.6	-5.0	-6.4	1.1	-18.7	23.6	-5.2	6.2
外需	7.9	8.8	0.6	-1.7	11.2	11.6	-7.8	-7.2	10.0
代理店	5.8	-2.6	-1.4	0.3	4.7	-3.1	3.3	9.3	-0.2

(備考) 季節調整値による。季節調整系列は個別に季節調整を行っているため、需要者別内訳の合計は全体の季節調整値とは一致しない。

詳細は以下の HP をご参照下さい。

<http://www.esri.cao.go.jp/jp/stat/juchu/1804juchu.html>

◎鉱工業指数調査

【最新プレス情報 平成 30 年 4 月分】（平成 30 年 06 月 14 日発表）

鉱工業指数(生産・出荷・在庫、生産能力・稼働率、生産予測指数)
～製造業の動きから見る日本の景気～

<概況>

製造工業稼働率指数は、104.2 で前月比 1.8%の上昇であった。

製造工業生産能力指数は、94.0 で前月比-0.3%の低下であった。

製造工業生産能力・稼働率指数、平成22年（2010年）=100

	季節調整済指数		原指数		
	指数	前月比	指数	前月比	前年同月比
稼働率	104.2	1.8	100.6	-9.0	1.9
生産能力			94.0	-0.3	0.0

鉱工業指数、平成22年（2010年）=100

	季節調整済指数		原指数	
	指数	前月比	指数	前年同月比
生産 (速報値)	104.6 (104.4)	0.5 (0.3)	100.8 (100.7)	2.6 (2.5)
出荷 (速報値)	103.1 (103.3)	1.6 (1.8)	97.9 (98.1)	3.6 (3.8)
在庫 (速報値)	112.8 (113.0)	-0.6 (-0.4)	107.5 (107.7)	1.7 (1.9)
在庫率 (速報値)	113.8 (113.7)	-2.8 (-2.9)	111.0 (110.9)	0.6 (0.5)

<電子部品・デバイス工業、電気機械工業>

(1) 4月の製造工業稼働率指数は、104.2で前月比1.8%の上昇であった。

業種別にみると、輸送機械工業同5.4%、電子部品・デバイス工業同2.6%、情報通信機械工業同3.5%等が上昇し、はん用・生産用・業務用機械工業同▲1.9%、電気機械工業同▲4.1%等、化学工業同▲1.2%等が低下した。

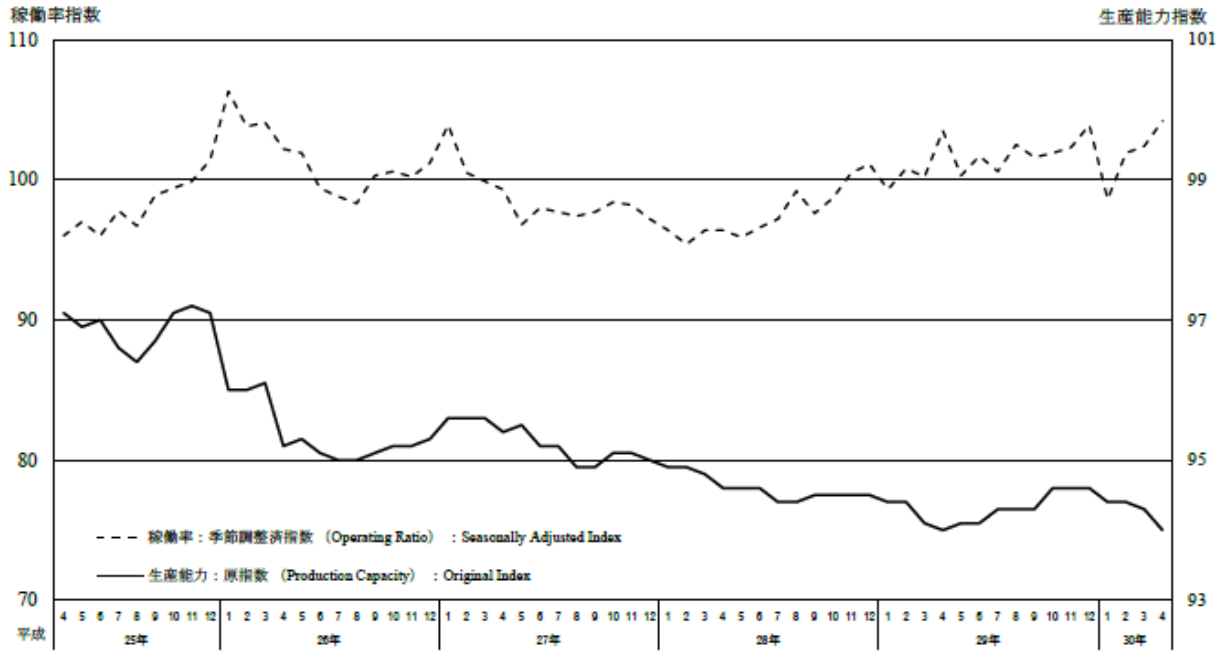
(2) 4月の製造工業生産能力指数は、94.0で前月比▲0.3%の低下であった。

業種別に見ると、電子部品・デバイス工業同▲1.9%、輸送機械工業同▲0.5%、パルプ・紙・紙加工品工業同▲0.6%等が低下し、はん用・生産用・業務用機械工業同0.3%、金属製品工業同1.0%、鉄鋼業同0.3%等が上昇した。

製造工業生産能力指数・稼働率指数の推移(グラフ)

Historical Data (Graph) for Indices of Production Capacity and Operating Ratio

(平成22年基準)
(2010 average=100)



製造工業生産能力指数・稼働率指数の時系列表
Historical Data for Indices of Production Capacity and Operating Ratio

平成22年 = 100
index, 2010 = 100

年 月	稼働率 Operating Ratio				生産能力(末) Production Capacity				Year and Month
	季節調整済指数 Seasonally Adjusted Index		原指数 Original Index		原指数 Original Index				
	前月(期)比 %Change From Previous Month(Quarter)		前年 (同月期)比 %Change From Previous Year		前月(期)比 %Change From Previous Month(Quarter)	前年 (同月期)比 %Change From Previous Year			
平成 27 年			98.7	▲ 2.6	95.0	▲ 0.3			C.Y. 2015
28			97.7	▲ 1.0	94.5	▲ 0.5			C.Y. 2016
29			101.5	3.9	94.6	0.1			C.Y. 2017
平成 27 年度			98.0	▲ 2.6	94.8	▲ 0.8			F.Y. 2015
28			98.6	0.6	94.1	▲ 0.7			F.Y. 2016
29			101.7	3.1	94.3	0.2			F.Y. 2017
平成29 年	I 期	100.1	0.0	101.9	3.7	94.1	▲ 0.4	▲ 0.7	Q1 2017
	II 期	101.8	1.7	100.2	5.8	94.1	0.0	▲ 0.5	Q2
	III 期	101.6	▲ 0.2	101.4	3.3	94.3	0.2	▲ 0.2	Q3
	IV 期	102.7	1.1	102.5	2.9	94.6	0.3	0.1	Q4
平成30 年	I 期	101.0	▲ 1.7	102.6	0.7	94.3	▲ 0.3	0.2	Q1 2018
平成29 年	2月	100.8	1.5	99.6	3.9	94.4	0.0	▲ 0.5	Feb. 2017
	3月	100.2	▲ 0.6	109.9	3.6	94.1	▲ 0.3	▲ 0.7	Mar.
	4月	103.5	3.3	98.7	6.2	94.0	▲ 0.1	▲ 0.6	Apr.
	5月	100.3	▲ 3.1	96.2	5.7	94.1	0.1	▲ 0.5	May
	6月	101.7	1.4	105.6	5.5	94.1	0.0	▲ 0.5	Jun.
	7月	100.6	▲ 1.1	103.5	3.0	94.3	0.2	▲ 0.1	Jul.
	8月	102.5	1.9	97.0	4.1	94.3	0.0	▲ 0.1	Aug.
	9月	101.6	▲ 0.9	103.6	2.7	94.3	0.0	▲ 0.2	Sep.
	10月	101.9	0.3	102.8	5.0	94.6	0.3	0.1	Oct.
	11月	102.3	0.4	103.0	1.5	94.6	0.0	0.1	Nov.
	12月	103.9	1.6	101.6	2.3	94.6	0.0	0.1	Dec.
平成30 年	1月	98.6	▲ 5.1	96.9	0.8	94.4	▲ 0.2	0.0	Jan. 2018
	2月	101.9	3.3	100.3	0.7	94.4	0.0	0.0	Feb.
	3月	102.4	0.5	110.6	0.6	94.3	▲ 0.1	0.2	Mar.
	4月	104.2	1.8	100.6	1.9	94.0	▲ 0.3	0.0	Apr.

※ なお、詳細は以下の HP をご参照下さい。

http://www.meti.go.jp/statistics/tyo/iip/result/pdf/press/b2010_201804nj.pdf

2. その他の動向

1) 電子部品グローバル出荷統計

一般社団法人 電子情報技術産業協会 (JEITA) は、電子部品グローバル出荷統計の最新版月別出荷金額 (2018.05.31 発表) を公表しました。

・2018年3月グローバル出荷額は3,351億円、前年比99.4%となり、前年比マイナスとなった。

- ・品目別出荷は受動部品（前年比 111.9% 1,300 億円）、接続部品（同 90.7% 875 億円）、変換部品（同 95.7% 694 億円）、その他の電子部品（同 92.7% 481 億円）となった。
- ・地域別出荷は、日本（前年比 100.1% 838 億円）、米州（同 103.6% 349 億円）、欧州（同 106.2% 379 億円）、中国（同 97.0% 1,074 億円）、アジア・その他（同 96.9% 712 億円）となった。

【月別出荷金額】

1. 月別出荷金額（2018.05.31 発表：毎月更新）

電子部品出荷額（億円）	2017年度						2017年度累計		
	1月		2月		3月		4月-3月		
	金額(億円)	前年比(%)	金額(億円)	前年比(%)	金額(億円)	前年比(%)	金額(億円)	前年比(%)	
世界計	3,604	115	2,975	98	3,351	99	41,015	109	
(日本)	880	115	760	102	838	100	9,943	112	
品目別	受動部品	1,340	127	1,104	106	1,300	111	14,952	114
	コンデンサ	945	133	768	108	915	114	10,335	117
	抵抗器	132	114	118	101	137	107	1,560	111
	トランス	38	116	35	108	40	107	451	107
	インダクタ	223	113	182	102	206	103	2,605	107
	その他	-	-	-	-	-	-	-	-
	接続部品	919	105	846	96	875	90	11,183	110
	スイッチ	408	103	370	95	370	84	4,834	105
	コネクタ	506	106	471	98	499	95	6,286	113
	その他	5	111	4	90	5	95	62	107
	変換部品	859	116	626	94	694	95	9,162	110
	音響部品	226	112	142	93	167	109	2,175	113
	センサ	350	107	318	97	331	90	4,189	104
	アクチュエータ	282	134	165	90	195	95	2,797	117
	その他の電子部品	485	104	398	86	481	92	5,717	94
	電源部品	196	98	185	96	209	89	2,399	105
	高周波部品	289	109	212	80	271	95	3,318	88

【地域別出荷金額】

2. 地域別出荷金額 «2017年度»

地域別出荷金額（億円）	2017年度						2017年度累計	
	1月		2月		3月		4月-3月	
	金額(億円)	前年比(%)	金額(億円)	前年比(%)	金額(億円)	前年比(%)	金額(億円)	前年比(%)
グローバル	3,604	115	2,975	98	3,351	99	41,015	109
日本	880	115	760	102	838	100	9,943	112
米州	352	111	327	109	349	103	3,898	106
欧州	391	119	360	116	379	106	4,138	114
中国	1,213	117	852	85	1,074	96	14,049	104
アジア他	770	111	678	98	712	96	9,026	112

※電子部品グローバル出荷統計について

- ・本統計は、電子部品部会で実施している「電子部品企業のグローバル動向調査」を基に作成しております。
- ・本調査は、参加70数社から提出された、連結ベース（グループ間取引調整後）の出荷額データをとりまとめ、地域に関するデータは、原則として該当部品が消費される地域への出荷になります。
- ・なお、合計値につきましては、単位未満切り捨てのため、一致しない場合がありますので、ご了承ください。

※ なお、詳細は以下の HP をご参照下さい。

http://home.jeita.or.jp/ecb/information/info_stati.html

2) MEMS 関連最新調査

米国調査会社マインドコマース(Mind Commerce)の調査レポート「MEMS(微小電気機械システム) 2017 - 2022 年 : コンポーネント、製品、用途、垂直市場」は、MEMS のエコシステム、企業、製品、サービスなどの市場を査定している。2017-2022 年の MEMS 市場の機能、機器、用途、垂直市場を予測し、世界市場と地域毎に提供している。

内容は、

- * 内蔵システムと MEMS
- * MEMS 市場促進要因
- * 企業分析
- * MEMS 市場予測

となっております。

サマリーは以下の HP をご参照下さい。

<http://www.dri.co.jp/auto/report/mindc/mcmems.html>

以上